

米国カリフォルニア州 ネーブルオレンジの収穫が最盛期

[FreshPlaza](#) 2025年1月14日

オレンジがほぼ周年供給されるカリフォルニア州で、供給が最盛期に達している。8世代にわたる家族経営の生産・梱包・出荷事業者であるキングスリバーパッキング社のジェシー・シルバ氏は、「弊社は現在、カリフォルニア州でネーブルオレンジの収穫の最盛期を迎えている」と述べ、ネーブルは7月上旬まで収穫を続ける」と付言した(以下「」は同氏の話)。カリフォルニア州では4月には果汁用バレンシアオレンジの収穫が始まり、9月下旬ないしは10月上旬まで続く。

今シーズンは、果樹当たりの着果数がかかなり多いため、収穫量は昨年よりも多くなっている。「課題はサイズである。オレンジのサイズがこれまで非常に小さかったが、シーズンが晩生の果実に移行するにつれて、これは変わってくる。また、企業として成長するにつれて、引き続き販路を開拓し新しい関係を発展させていく。弊社ではこれまで取引先のニーズを満たすことに非常に成功しているので、これを継続し、それらのニーズの変化に応じて進化することを目指したいと考えている。」

カリフォルニア州内の同社向けのオレンジ生産は、主にD1地域、すなわちセントラルバレーで行われている。ただし、晩生の果実は他の柑橘類品種も栽培されている海岸に近いD2地域で栽培されている。「今年は早めのスタートであった。これは、いつになく高い夏の気温と、限られた降雨量により、果樹のストレスが高まったためである可能性が高い。」

その他の特産柑橘類

ネーブルとバレンシアに加え、同社はシーズンを通して、エアルームネーブルオレンジ(「オールドラインワシントンネーブル」というブランドがある)、カラカラネーブルオレンジ(果肉がピンクのネーブルオレンジ)、ラズベリーオレンジ(果肉が暗赤色の自社ブランドのブラッドオレンジ)、さらに有機ネーブルオレンジも栽培している。

出荷シーズンに向けて多くの販促活動が事前に設定されており、需要に関しては一貫して安定している。「需要は販促によって増進されており、安定的に継続すると予想している。果実が食べ頃の時期には、価格が高くなり過ぎない限り、需要が増加する。」

これらすべては、オレンジの価格が良好であることを意味している。「今シーズンは、世界的なオレンジ果汁の不足により果汁価格の底値が高くなっているため、梱包して出荷する生食用果実にも底値が形成されている。昨年は、生育期間中の雨天により全体的に病虫害が増え、収穫物の品質が悪かった。しかし、今年の果実は非常に高品質で、見た目も大変きれいである。これにより小売業者からの十分な安定的需要が生まれ、果実の味が非常に良いため消費者はそれに反応している。」

今後については、ミネオラタンジェロも出荷が始まったばかりで、ゴールドナゲットマンダリンの出荷もまもなく開始される。シルバ氏は、「弊社の出荷シーズンは夏の輸入果実にスムーズに橋渡しされるので、柑橘類の供給に切れ目が生じることはない」と述べ、同社はレモン、マンダリン、グレープフルーツ、その他の特産柑橘類も梱包・出荷すると付け加えた。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)